

エコアクション21 環境活動レポート

活動期間 2018年4月～2019年3月



株式会社 アイクリーン
<http://www.ai-clean.co.jp>
2019年7月20日作成

目次

(頁)

| | |
|---|---------|
| 1. 会社概要 | 3 ~ 7 |
| 2. 対象範囲 | 8 |
| 3. 環境方針 | 9 |
| 4. 環境目標 | 10 |
| 5. 環境活動計画 | 11 |
| 6. 環境目標の実績 | 12 |
| 7. 環境活動計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容 | 13 |
| 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 | 14 ~ 17 |
| 9. 代表者による全体評価と見直しの結果 | 18 |
| 10. 次年度の環境目標について | 19 |

1. 会社概要

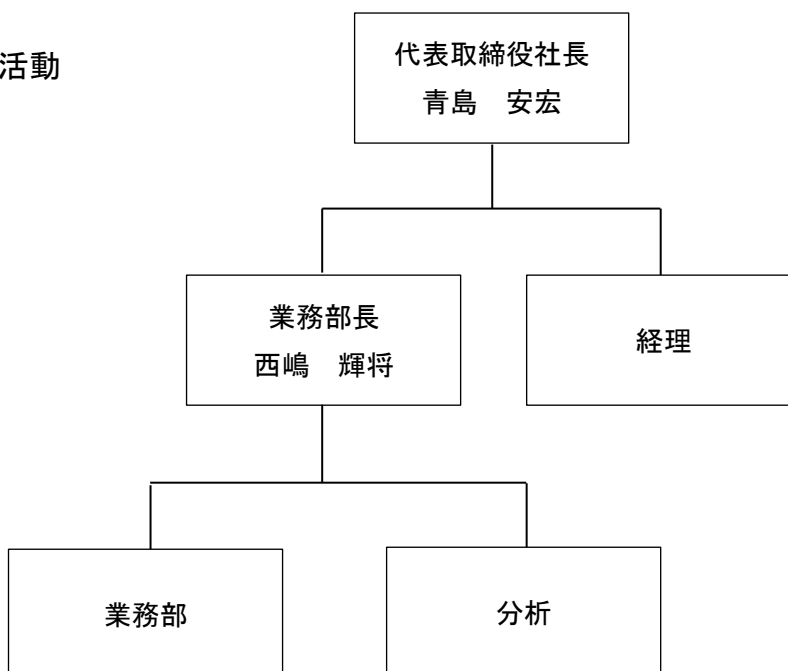
- 会社名 株式会社アイクリーン
- 代表者 青島 安宏
- 住所 本社 静岡県富士市大野 30 番地の 2
工場 静岡県富士市大野 32 番地
- 連絡先 電話 0545-32-0070
FAX 0545-32-0075
- 資本金 5000 万円
- 設立年月日 平成 18 年 9 月 15 日
- 環境管理責任者 業務部長 西嶋 輝将
- 事業の内容 特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物の処分業
廃液・汚泥・廃プラスチック等の中間処理
- 事業規模

| 活動規模 | 単位 | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 | 2016 年度 | 2017 年度 | 2018 年度 |
|------|----------------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|
| 処分量 | t | 14,466 | 13,657 | 14,731 | 19,658 | 21,517.6 | 23,601.2 |
| 売上高 | 百万円 | 177.7 | 236.0 | 218.6 | 234.4 | 258.9 | 318.7 |
| 従業員 | 人 | 5 | 5 | 5 | 5 | 4 | 4 |
| 床面積 | m ² | 4182 | 6252 | 6252 | 6252 | 6252 | 6252 |

■会社組織図

※認証範囲

全組織・全活動



○産業廃棄物処分業許可

許可番号 第 02221143879 号

許可品目 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず、金属くず

初回許可の年月日 平成 20 年 8 月 29 日

許可の有効年月日 平成 35 年 11 月 28 日

| | 処分方法 | 処分品目 | 処理能力 |
|---------------------|--------------|------------|-------------------------------------|
| 事業の範囲 (中間処分) | 脱水処分 | 汚泥 | 120 m ³ /8 時間 (※1) |
| | 油水分離 | 廃油 | 20 m ³ /8 時間 |
| | 中和処分 | 廃酸 | 合計 120 m ³ /8 時間 (※2) |
| | | 廃アルカリ | |
| | 中和酸化還元凝集沈殿処分 | 廃酸 | |
| | | 廃アルカリ | |
| | | 汚泥 | |
| | 破碎 | 廃プラスチック類 | 1.28t /8 時間 |
| ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず | | 2.90t/8 時間 | |
| 金属くず | | 4.04t/8 時間 | |

○特別管理産業廃棄物処分業許可

許可番号 第 02271143879 号

許可品目 腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ、特定有害汚泥、特定有害廃酸、特定有害廃アルカリ

初回許可の年月日 平成 20 年 8 月 29 日

許可の有効年月日 平成 35 年 11 月 28 日

| | 処分方法 | 処分品目 | 処理能力 |
|-----------------|----------------------|-----------|-------------------------------------|
| 事業の範囲 (中間処分) | 中和処分 | 腐食性廃酸 | 合計 120 m ³ /8 時間 (※3) |
| | | 腐食性廃アルカリ | |
| | 中和酸化還元凝集沈殿処分 (※4) | 特定有害汚泥 | |
| | | 特定有害廃酸 | |
| | | 特定有害廃アルカリ | |

許可処理数量は※1、※2、※3 を合計して 120 m³/8 時間

※4 有害物の許可品目は合計 7 品目で下記の通り

水銀又はその化合物、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、

六価クロム化合物、砒素又はその化合物、シアン化合物、セレン又はその化合物

■産業廃棄物処理施設

○中和施設、中和・還元・凝集沈殿施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030111167 号
 設置許可年月日 平成 19 年 8 月 28 日
 設置年月日 平成 20 年 8 月 29 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|--------------|-------|-----------------------------|
| 中和施設 | 廃酸 | 合計 120 m ³ /8 時間 |
| | 廃アルカリ | |
| 中和・還元・凝集沈殿施設 | 廃酸 | |
| | 廃アルカリ | |
| | 汚泥 | |

○脱水施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030110143 号
 設置許可年月日 平成 19 年 8 月 28 日
 設置年月日 平成 20 年 8 月 29 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|-------|------|-------------------------|
| 脱水施設 | 汚泥 | 60 m ³ /8 時間 |

○脱水施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030110227 号
 設置許可年月日 平成 28 年 2 月 2 日
 設置年月日 平成 29 年 3 月 27 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|-------|------|-------------------------|
| 脱水施設 | 汚泥 | 60 m ³ /8 時間 |

○油水分離施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030110142 号
 設置許可年月日 平成 19 年 8 月 28 日
 設置年月日 平成 20 年 8 月 29 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|--------|------|-------------------------|
| 油水分離施設 | 廃油 | 20 m ³ /8 時間 |

○破碎施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 32 番
 設置許可番号 —
 設置許可年月日 —
 設置年月日 平成 31 年 4 月 5 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|-------|---------------------|------------|
| 破碎施設 | 廃プラスチック類 | 1.28t/8 時間 |
| | ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず | 2.90t/8 時間 |
| | 金属くず | 4.04t/8 時間 |

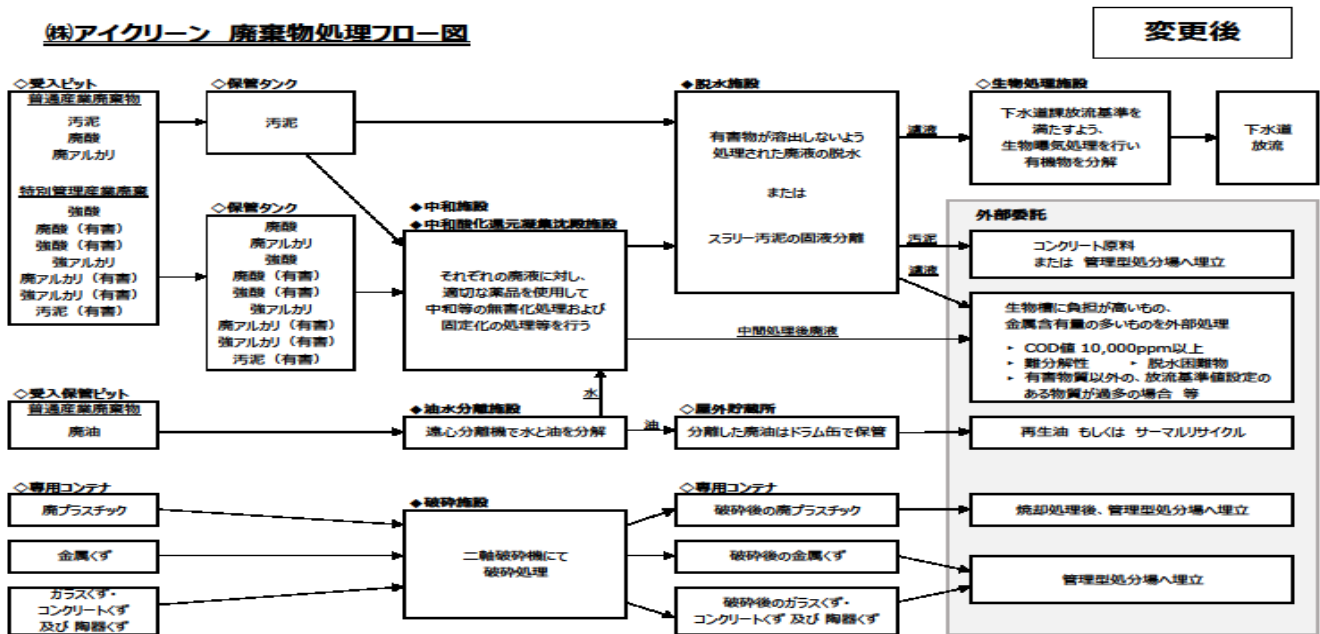
■特別管理産業廃棄物処理施設

○中和施設、中和酸化還元凝集沈殿施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030111167 号
 設置許可年月日 平成 21 年 7 月 21 日
 設置年月日 平成 20 年 8 月 29 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|--------------|-----------|--------------------------------|
| 中和施設 | 腐食性廃酸 | 合計 120 m ³ /8 時間 |
| | 腐食性廃アルカリ | |
| 中和酸化還元凝集沈殿施設 | 特定有害廃酸 | |
| | 特定有害廃アルカリ | |
| | 特定有害汚泥 | |

■ 処理工程図



- ① 廃棄物のサンプルを分析、見積、契約
- ② 計量後、廃棄物の品目別に受入ピットにて確認し、荷卸しして移送
- ③ 廃棄物の品目別に廃棄物貯槽にて保管
- ④ 中和凝集槽にて薬注処理、簡易テストを行う
- ⑤ 処理後の廃棄物を汚泥槽に移送
 - ※一部処理後廃液を外部委託
- ⑥ 脱水処理
 - 汚泥は外部搬出（リサイクル及び埋立処分）
- ⑦ 脱水ろ液は生物処理の工程へ移送
 - ※一部処理後廃液を外部委託
- ⑧ 生物処理工程を経て公共下水道へ放流

■ 処理実績

| | | 単位 | 2014 年度 | 2015 年度 | 2016 年度 | 2017 年度 | 2018 年度 |
|-------------------|--------------|----|----------|----------|----------|----------|----------|
| 処理量 受託した産業廃棄物の | 収集運搬量 | t | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 中間処理量 | t | 13,656.2 | 14,731.2 | 19,658.2 | 21,517.6 | 23,601.2 |
| | うち再資源化等量 | t | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 最終処分量 | t | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 中間処理後の産廃の処分量 | t | 1,540.7 | 1,576.7 | 1,759.3 | 1,756.2 | 2,141.1 |
| | うち再資源化等量 | t | 61.0 | 83.1 | 83.3 | 191.4 | 419.1 |

- 処理料金 別途個別見積によりますので、お気軽に当社までご連絡下さい。
処分費用及び収集運搬費の見積は全て無料です。

2. 対象範囲

1. 対象組織は株式会社アイクリーンとし、代表者、社員（アルバイト等含む）とする。
2. 対象活動は主に液体の特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物の処分業とし、各部門の対象活動範囲は具体的に下記の通りとする。
 - ・ 処理部門
敷地内で行われる廃棄物の受入、保管、移送、薬注処理、脱水処理、生物処理及び下水道放流、特殊車両の使用、廃棄物の外部搬出とする。容器処分を含む。
 - ・ 分析部門
廃棄物分析業務、廃棄物の処理試験、分析機器、使用薬品の管理業務とする。
 - ・ 事務部門
経理業務、購買業務、廃棄物の管理業務、社用車の使用とする。
3. 対象範囲は会社敷地内及び場外に排出される放流水、中間処理後の産業廃棄物とする。

3. 環境方針

環境方針

私たちは、**水**をきれいにします。

『有りと有らゆる知恵を絞って』

- 1、処理工程で出る汚泥の埋立率を削減し、リサイクル率の向上に取り組みます。
- 1、社内における電気使用量の削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 1、社内に於ける上水道使用の削減に取り組みます。
- 1、常に水処理技術の向上と共に薬品使用量の削減を目指し、お客様に安全・安心な情報提供に努めます。
- 1、地球環境の保全・修復を目的とする活動に積極的に参加します。
- 1、社内においてペーパーレス化等について検討し、廃棄物の削減を実施します。
- 1、限りある資源を有効利用する為に、グリーン購入を推進し、物質の循環型社会の構築に貢献します。
- 1、各関連法規及び、その他の要求事項を遵守します。

上記の実現可能な範囲内において、達成すべき目的・目標を掲げ、実行するとともに、見直しを行い継続的改善・改良に努めます。
この環境方針を維持・実行する為に、全社員に周知するとともに、ホームページを通じ社外にもお約束致します。



平成 25 年 4 月 1 日 制定

株式会社 アイクリーン

代表取締役

青島安宏

4. 環境目標

■4.1 環境目標

| 項目 | 基準期間 (2017年度) | 目標 | 目標値 (2018年度) | 主管部門 |
|-----------------------------|---|-----------------------------|----------------------------------|------|
| 二酸化炭素の排出量削減 (電気使用量の削減) | 電気使用量 61792kwh 二酸化炭素排出係数 (東京電力) 0.525kg-CO ₂ /kwh 二酸化炭素排出量 実績値 324,408kg 排出割合 15.08kg/t | 廃棄物の処分量当たりの二酸化炭素排出量削減 | 排出割合 15.08kg/t 以下 | 処理部門 |
| | | | | 分析部門 |
| | | | | 事務部門 |
| 廃棄物排出量の削減 (汚泥のリサイクル率アップ) | 汚泥のリサイクル率 実績値 8.8% 目標値 5.9% | 平成25年度の リサイクル率 5.9%以上 | リサイクル率 5.9%以上 | 処理部門 |
| 廃棄物排出量の削減 (コピー用紙の再利用) | コピー用紙の使用 28500枚 (110kg) 回収 84kg 実績回収率 73.7% | 前年回収率 の1%アップ | 回収率 74.7%以上 | 事務部門 |
| 化学物質の適正使用 (化学物質使用の効率化) | 実際の処理コスト /処理テストのコスト 目標値 58.4%以下 | 前年目標値を 1%上昇 | 処理コスト比 57.4%以下 | 処理部門 |
| 上水の使用量削減 | 上水使用量 実績値 539.9 m ³ | 上水使用量を 1%削減 | 上水使用量 534.5 m ³ 以下 | 処理部門 |
| | | | | 分析部門 |
| | | | | 事務部門 |
| グリーン購入の推進 | グリーン購入 目標値 74% | 購入比率を 前年目標値 1%アップ | グリーン購入適合品比率 75%以上 | 事務部門 |

※総排水量に関しては廃棄物の搬入量と搬入物の処理難易度によって地下水使用量、薬剤使用量が変化し、下水道放流量が大幅に変動するため把握が困難なので目標としては設定しないが、代替として上水使用量の削減を目標とする。

■4.2 環境目標 (年次、長期目標)

| 項目 | 基準年 (2017年度) | 目標 (2018年度) | 長期目標 (2022年度まで) | 主管部門 |
|-----------------------------|--|----------------------------------|--|------|
| 二酸化炭素の排出量削減 (電気使用量の削減) | 廃棄物処分量 1t 当たりの 二酸化炭素排出量 15.08kg/t | 15.08kg/t 以下 | 目標設定の見直し 処分量 1t 当たりの 二酸化炭素排出量 15kg/t 以下 | 処理部門 |
| | | | | 分析部門 |
| | | | | 事務部門 |
| 廃棄物排出量の削減 (汚泥のリサイクル率アップ) | 汚泥の総排出量 1,715.8t 内リサイクル量 151t リサイクル率 8.8% | リサイクル率 5.9%以上 | リサイクル率 15%以上 | 処理部門 |
| 廃棄物排出量の削減 (コピー用紙の再利用) | コピー用紙の購入枚数 28500枚 (114kg) 回収 73.7% | 回収率 74.7%以上 | 回収率 70.0%以上を確保 | 事務部門 |
| 化学物質の適正使用 (化学物質使用の効率化) | 実際の処理コスト /処理テストのコスト 57.4% | 処理効率 57.4%以下 | コスト比 50%以下 | 処理部門 |
| 上水の使用量削減 | 上水使用量 539.9 m ³ | 上水使用量 534.5 m ³ 以下 | 上水使用量 700 m ³ 以下 | 処理部門 |
| | | | | 分析部門 |
| | | | | 事務部門 |
| グリーン購入の推進 | グリーン購入 目標 74%以上 | 購入割合 75%以上 | 購入割合 80%以上 | 事務部門 |

5. 環境活動計画

■環境活動計画

| 項目 | 環境活動 | 取組内容 | 主管部門 |
|-------------|--------------------------------|---|------|
| 二酸化炭素の排出量削減 | ブローポンプ（消費電力 69kw）のインバーター制御の最適化 | 工場内でもっとも消費電力の大きいブローポンプのインバーターの生物槽の流量、負荷による制御のこまめな調整を行い、消費電力を削減する。 | 処理部門 |
| | 使用していない機器の電源 OFF | こまめに電源を OFF にし、待機電力を削減する。 終業時の点検等を確実にし、電源の切り忘れを防止する。 | 分析部門 |
| | ICP（消費電力 8kw）稼働時間の効率化 | ICP での測定を一度にまとめて行うなど、測定の短縮を図ることにより消費電力が大きい ICP の使用電気の削減をする。 サンプル数による ICP の稼働時間の効率を考慮し稼働。 | |
| | 昼休みの照明 OFF | 照明スイッチ付近に昼休みの電源 OFF の表示を行い、昼食後に消灯するように努める。 | 事務部門 |
| | エアコン消費電力削減 | リモコン付近に啓発掲示を行い、夏季（7月～9月）は設定温度 26℃、冬季（12月～2月）は設定温度 22℃とする。 | |
| 廃棄物の排出量削減 | 汚泥のリサイクル率アップ | 脱水機ろ布の洗浄をこまめに行い、含水率を下げる。 取引業者の新規契約を進め、リサイクル向け排出量の拡大に努める。 | 処理部門 |
| | コピー用紙の再利用 | 購入、使用した枚数を把握し、リサイクル率の把握を行う。 今まで紙媒体で配布及び保管していた書類を PDF 化し、紙保管を行う書類を極力減らしていく | 事務部門 |
| | | FAX を複合機内に保管し、プリントアウトするものを選択、必要ないものはそのままデータ保管、もしくは破棄できるようにする | |
| 化学物質の適正使用 | 化学物質使用の効率化（処理コスト比の向上） | 処理方法の効率化を上げるため、廃液同士の混合処理等の工夫を行う。 | 処理部門 |
| | | 営業、事務と連携し、廃棄物全体のバランスを考慮して契約、搬入を進めていく。 | |
| | | 新たな薬品、安価なリサイクル品等の検討を進め、処理にかかるコストの削減をする。 | |
| 上水の使用量削減 | 工場内の節水運動 | 使用頻度が高い水栓に節水を求める掲示をし、啓発運動を行う。 機器、容器の洗浄などの節水に努める。 | 処理部門 |
| | 分析室内の節水運動 | 節水コマを導入し、上水使用量を削減する。 蒸留装置、冷却装置の冷却水をため、ガラス器具の洗浄水等に使用する | 分析部門 |
| | 水道配管の漏洩点検 | 月に 1 回未使用時に水道メーターが回っていないかチェックする。 | 事務部門 |
| グリーン購入 | グリーン購入の推進 | 事務用品の新規に購入するものに関してはカタログ等のグリーン商品リスト掲載品から積極的にリストアップする | 事務部門 |

6. 環境目標の実績

■環境活動実績と結果

| 項目 | 基準期間 (2017年度) | 目標値 (2018年度) | 実績 (2018年度) | 評価 |
|---|---|---|--|----|
| 二酸化炭素の 排出量削減 (電気使用量 の削減) | 電気使用量 617920kwh 二酸化炭素排出量 実績値 324,408kg 処分量当たりの二酸化炭素 排出量 15.08kg/t | 前年度以下 15.08kg/t 以下 | 電気使用量 614109kwh 二酸化炭素排出量 322,407kg 処分量 23,601.2t 13.66kg/t | ○ |
| 廃棄物排出量 の削減 (汚泥のリサ イクル率ア ップ) | 汚泥の総排出量 1,715.8t 内リサイクル量 151t リサイクル率 8.8% | リサイクル率 平成 25 年度実績の 5.9%以上 | 汚泥の総排出量 2,115t 内リサイクル量 393t リサイクル率 18.6% | ○ |
| 廃棄物排出量 の削減 (コピー用紙 の再利用) | コピー用紙の購入枚数 28500 枚 (114 kg) 回収 84kg 実績回収率 73.7% | 回収率 前年実績から 1%アップ 74.7%以上 | コピー用紙の使用 27,000 枚 (108kg) 回収 81kg 回収率 75% | ○ |
| 化学物質の適 正使用 (化学物質使 用の効率化) | 実際の処理コスト /処理テストのコスト 実績値 51.15% 目標値 58.4%以下 | 処理コスト比 前年目標から 1%アップ 57.4%以下 | 処理コスト比 43.03% | ○ |
| 上水の使用量 削減 | 上水使用量 実績値 m ³ 539.9 m ³ | 上水使用量 前年実績から 1%削減 534.5 m ³ 以下 | 上水使用量 708.1 m ³ | × |
| グリーン購入 の推進 | グリーン購入割合 目標値 74% | 前年目標から 1%アップ 購入割合 75%以上 | 購入割合 76% | ○ |

※活動の結果は目標達成○、業務上のやむを得ない理由で未達成△、目標未達成×で表す。

※二酸化炭素排出量の算出には東京電力の排出係数（平成 24 年度）の 0.525 を使用しました。

7. 環境活動計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容

| 項目 | 環境活動 | 主管部門 | 取組結果 | 評価 | 次年度の取組内容 |
|-------------|----------------------------------|---------------------------------------|--|------|------------------------------------|
| 二酸化炭素の排出量削減 | ブローポンプ（消費電力69kw）のインバーター制御の最適化 | 処理部門 | 日常業務の中で最適なエア量供給が実施出来るようこまめに出力調整を行い電気使用量削減も達成出来た。 | ○ | 電気使用量自体が削減出来ているので引き続きこまめに出力調整を行なう。 |
| | 場内照明のLED化 | 処理部門 | 2018年度はLED化した場所は無かった。切り忘れ防止の掲示等を行ない適切な証明確保に努めた。 | ○ | 今後も交換必要な個所はLED照明を採用していく |
| | 使用していない機器の電源OFF | 分析部門 | 掲示物による啓発掲示を行い、活動した。 | ○ | 活動継続 |
| | | | 終業時の点検表を作成、電源の切り忘れ防止。 | ○ | 活動継続 |
| | | | ホットプレート、乾燥機等は一度にまとめて使用するよう心掛けた。 | ○ | 活動継続 |
| | ICP（消費電力8kw）稼働時間の効率化 | 分析部門 | 急を要するもの以外の分析は曜日を決めて一度にまとめて測定を行った。 | ○ | 活動継続 |
| | サンプルを考慮し効率よくICPの稼働を行う。パケットの拡充実施。 | ○ | 活動継続 | | |
| | 照明のOFF | ○ | 活動継続 | | |
| 昼休みの照明OFF | 事務部門 | 啓発掲示を行い、昼食後の照明をOFFにした。 | ○ | 活動継続 | |
| エアコン消費電力削減 | | 啓発掲示を行い、設定温度が徹底されていた。 | ○ | 活動継続 | |
| 廃棄物の排出量削減 | 汚泥のリサイクル率アップ | 処理部門 | 脱水機のろ布の洗浄を維持管理の規定以上に行い、含水率の低下と作業効率向上に努めた。 | ○ | 活動継続 |
| | | | 処理量増加に伴い処分後の汚泥が増加したが新規のリサイクル先との契約、搬出が順調に進みリサイクル率のアップに貢献した。 | ○ | 活動継続 |
| | コピー用紙の再利用 | 事務部門 | 購入、使用したコピー用紙の記録を集計した。 | ○ | 活動継続 |
| | | | リサイクル専用BOXを設置し、回収量の記録をした。 | ○ | 活動継続 |
| ペーパーレス化の推進 | 事務部門 | 裏紙専用BOXを設置し、積極的に活用した。 | ○ | 活動継続 | |
| | | 紙媒体からデータでの保管に積極的に切り替え、周知した。 | ○ | 活動継続 | |
| 化学物質の適正使用 | 化学物質の使用の効率化（処理コスト比の向上） | 処理部門 | 廃液の混合処理及び新規契約物件に関してはもっとも効率的な処分方法の検討を行なって効率化に努めた。 | ○ | 分析との連携を取って効率化を継続する |
| | | | 営業、事務と連携して現状把握と今後の対策について会議を行った。 | ○ | 契約物件の精査と会議を通じて情報の共有化を継続していく |
| | | | 薬品の購入先の再選定等を行い、価格購入ロット等の最適化に努めた。 | ○ | 薬品購入先の選定は常に情報集収集しながら最適化を図る。 |
| 上水の使用量削減 | 工場内の節水運動 | 処理部門 | 上水の水栓に啓発掲示を行った。 | × | 再掲示を実施する。 |
| | | | 機器、容器の洗浄の際に手早く作業を進めた。 | ○ | 活動継続 |
| | 分析室内の節水運動 | 分析部門 | 節水コマを導入し、使用量を削減した。 | ○ | 活動継続 |
| | | | 溜め水をガラス器具の洗浄に利用した。 | ○ | 活動継続 |
| 水道配管の漏洩点検 | 事務部門 | 月に1度、未使用時の水道メーターのチェックを行い、漏洩有無の点検を行った。 | ○ | 活動継続 | |
| グリーン購入の推進 | グリーン購入比率の増加 | 事務部門 | カタログ等でのグリーン商品を積極的に選択し、グリーン購入比率を高める。 | ○ | 必要性を熟考した上で購入時にはグリーン購入を優先していく。 |

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

調査期間中の、環境関連法規の違反はありません。

また、近隣企業、住民等からのクレーム、訴訟はありませんでした。 調査日 2019年7月1日

| 関連法規の名称 | チェック項目 | 調査結果 | 判定 |
|------------------|--------------------------------------|--|----|
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | ① 産業廃棄物処分業の許可有効期限 | 許可有効期限は平成35年11月28日まで | ○ |
| | ② 特別管理産業廃棄物処分業の許可有効期限 | | ○ |
| | ③ 産業廃棄物処理施設の変更の有無（許可、届出の必要） | 破砕機の追加に伴い事業範囲変更許可申請実施 | ○ |
| | ④ 許可に必要な資格 | 中間処理施設技術管理者 公害防止管理者水質一種 等の資格を取得済 | ○ |
| | ⑤ 産業廃棄物の保管に係る事項 | 保管掲示板を確認、保管容量は法律の上限を超える数量（許可処理数量の14倍）のタンク設置なし | ○ |
| | ⑥ 産業廃棄物管理票（C票）、契約書の保管状況及び帳簿の管理状況 | 産業廃棄物管理票に関しては全て保管、契約書は事務所内に顧客ごとにファイルして保管 帳簿はPC内に全て保管、管理 | ○ |
| | ⑦ 施設の維持管理記録の内容 | 法に規定されている維持管理は月に一回実施、 その他設備の点検も日常点検で実施 | ○ |
| | ⑧ 法改正に伴う変更の有無 | 水銀等の廃棄物に関する委託契約書への記載を実施 | ○ |
| | ⑨ 排出する汚泥に関して特別管理産業廃棄物の判定基準以下であることの確認 | 排出される汚泥は年に一度、試験成績書を取得し、関係各所に提出、2018年度の結果は問題なし ※基準値、試験の結果は下表参照 | ○ |
| | ⑩ 産業廃棄物処理実績報告書及び産業廃棄物処分状況報告書の提出状況 | 2018年度分は全て6月末日までに提出 | ○ |
| | ⑪ マニフェストの法律で定められた期間内の返却 | 弊社処分のマニフェストはPC内で管理され、紐付けされた段階で入力し、期間外ではエラー通知がなされるようになっており、2018年度は問題がなかった | ○ |
| | ⑫ 水銀を含む特別管理産業廃棄物 | 現在社内の規定として水銀含有の場合受入不可としている。委託契約書への通知義務についての記載実施 | ○ |
| （排出事業者として） | ⑬ 弊社から排出される産業廃棄物等の保管場所掲示板 | 産業廃棄物保管掲示板を設置した（廃プラ、木くず、紙くず、ガラス、鉄くず等） | ○ |
| | ⑭ 産業廃棄物管理票交付等状況報告書 | 2018年度分は全て6月末日までに提出 | ○ |
| | ⑮ 搬出先との契約書締結 | 搬出先の追加に伴う契約の締結を行った | ○ |
| | ⑯ マニフェストの発行、保管 | 弊社保管のA、B2、D、E票は年度毎にめられ、過去5年度分を全て保管 | ○ |
| | ⑰ マニフェストの法律で定められている期間内の返却の確認及び期限外の報告 | 弊社排出の廃棄物に関してマニフェストの返却期限が超過したものはなかった | ○ |

| 関連法規の名称 | チェック項目 | 調査結果 | 判定 |
|----------------------|------------------------------|---|----|
| 静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例 | ① 産業廃棄物管理責任者の選定 | 業務部長を管理責任者として選任 | ○ |
| | ② 廃棄物処分委託先の実地確認（必要項目の見直し等含む） | 静岡県が発行している外部調査票の見本に従って作成、必要な変更を行って運用している | ○ |
| | ③ 実地確認の有効期限 | 搬出先の実地確認の有効期限のリストを作成し、チェック | ○ |
| | ④ 実地確認記録の保管状況 | 産業廃棄物委託先チェック表としてファイルして保管 | ○ |
| | ⑤ 事前手続きが必要な変更 | 特になし | ○ |
| 下水道法 | ① 富士市下水道の排水基準の遵守 | 社内分析により測定 測定値結果の問題なし | ○ |
| | ② 下水道部への年次報告 | 2018年度は提出済、試験成績書の数値に問題なし ※基準値、試験の結果は下表参照 | ○ |
| | ③ 下水道法の特定施設の届出 | 変更なし | ○ |
| 水質汚濁防止法 | ① 有害物質使用特定施設及び有害物質貯蔵指定施設の届出 | 変更なし | ○ |
| | ② 施設の変更の有無及び変更届 | 上記の分を届出済み | ○ |
| 土壤汚染対策法 | ① 溶出基準の規制値 | 本年度より年2回の分析実施（土壌基準分析：溶出）結果は特に問題なし。持込先からの異常報告等もなし。 | ○ |
| | ② 排出先ごとの自主基準に係る規制値 | 上記の基準＋含有基準があるが、分析機関での分析も実施しデータ開示。排出先からの異常報告もなし。 | ○ |
| 騒音規制法 | ① 特定施設の届出の変更（破碎機） | 30年5月9日にて届出し5月14日受理書交付 | ○ |
| 振動規制法 | ① 特定施設の届出の変更（破碎機） | 上記同様に届け出及び受理書交付済み | ○ |
| 悪臭防止法 | ① 周囲への悪臭の漏洩 | 生物槽特有の臭気はあるが、外部に漏洩して悪臭被害が及ぶほどではなかった 加えて排ガス処理装置への接続配管の設置 ※基準値15（敷地境界線） | ○ |
| | ② 悪臭に関する苦情の有無 | 一年間苦情なし | ○ |
| 消防法 | ① 屋外貯蔵所の届出 | 特に変更なし | ○ |
| | ② 消火器の設置状況（有効期限） | 設置状況は良好、有効期限も問題なし 受入施設、処理施設、屋外貯蔵所に設置 | ○ |
| | ③ 指定数量の遵守 | 指定数量以上のドラム缶廃油の受入なし | ○ |
| | ④ 小型ボイラーに関わる事項（設置、ばい煙、少量危険物） | 提出済の届出に変更なし | ○ |
| その他の要求事項 | ① 自治会との協定に基づく報告事項等 | 特になし | ○ |
| フロン排出抑制法 | ① 点検・保守管理・引き渡し | 簡易点検・定期点検・充填・回収・再生 破棄基準の遵守 | ○ |

■ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律における

特別管理産業廃棄物汚泥に該当する溶出の基準値及び試験の結果（2018年度）

| 試験の対象 | 基準値 (mg/L) | 試験の結果 (mg/L) |
|---------------------|------------|--------------|
| 水素イオン濃度 (pH) | — | |
| カドミウム及びその化合物 | 0.09 以下 | 0.005 未満 |
| 鉛及びその化合物 | 0.3 以下 | 0.05 未満 |
| 六価クロム化合物 | 1.5 以下 | 0.05 未満 |
| 水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 | 0.0005 以下 | 0.0005 未満 |
| シアン化合物 | 1 以下 | 0.1 未満 |
| ヒ素及びその化合物 | 0.3 以下 | 0.02 未満 |
| セレン及びその化合物 | 0.3 以下 | 0.01 未満 |
| 含水率 | 85%以下 | 48.2% |
| 全油分 | 5%未満 | 1.27% |

■ 下水道法における放流基準値及び試験の結果（2018年度）

| 試験の対象 | 基準値 (mg/L) | 試験の結果 (mg/L) | 試験の対象 | 基準値 (mg/L) | 試験の結果 (mg/L) |
|--------------|------------|--------------|--------------|-----------------------|--------------|
| 水銀及びその化合物 | 0.005 以下 | 0.0005 未満 | 温度 | 規制なし (指標 45℃以下) | 16℃ |
| アルキル水銀 | 検出されないこと | — | pH | 5.7~8.7 | 8.3 |
| カドミウム及びその化合物 | 0.1 以下 | 0.003 未満 | COD | 規制なし | — |
| 六価クロム化合物 | 0.5 以下 | 0.05 未満 | BOD | 600 未満 | 130 |
| 鉛及びその化合物 | 0.1 以下 | 0.01 未満 | ノルマルヘキサン抽出物質 | 鉱物油 5 以下 植物油 30 以下 | 1 未満 1 未満 |
| ヒ素及びその化合物 | 0.1 以下 | 0.01 未満 | フェノール類 | 5 以下 | 0.1 未満 |
| セレン及びその化合物 | 0.1 以下 | 0.01 未満 | SS | 600 未満 | 70 |
| クロム及びその化合物 | 2 以下 | 0.1 未満 | ヨウ素消費量 | 220 未満 | 16 |
| シアン化合物 | 1 以下 | 0.1 未満 | アンモニア性窒素 | 合計 380 未満 | 43.2 |
| 有機リン化合物 | 1 以下 | 0.1 未満 | 硝酸性窒素 | | 0.10 |
| 銅及びその化合物 | 3 以下 | 0.05 未満 | 亜硝酸性窒素 | | 0.12 |
| 亜鉛及びその化合物 | 2 以下 | 0.11 | | | |
| 鉄及びその化合物 | 10 以下 | 0.1 未満 | | | |
| マンガン及びその化合物 | 10 以下 | 0.1 未満 | | | |
| ホウ素及びその化合物 | 10 以下 | 3 | | | |
| フッ素及びその化合物 | 8 以下 | 0.2 未満 | | | |

調査結果の総括と来年度以降の注意事項

- ・ 南側用地（大野 32 番地）の土地利用申請について完了し 2019 年 4 月にて 14 条の許可取得も完了した。（H31. 4. 5）設置に伴い必要な各種届出等も遅滞無く実施済み。
- ・ 2019 年度中に B 脱水機のパーツ交換等を予定しており必要な各種届出等を遅滞無く提出しながら設備の修繕活動等実施する。
- ・ 放流水について異常・緊急時には遅滞無く下水放流を停止出来るよう水質監視システムについて再検討を行なう。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

■全体評価と見直し

| | |
|---------------------------|---|
| <p>二酸化炭素排出量の削減</p> | <p>2017年度より処理量に対しての二酸化炭素排出量でのカウントをスタートし2年目となった。単純な電力消費量等の増減のみではなく、事業活動を総合的に見て各種の数値を拾い出しながら数値管理を行なった結果、二酸化炭素削減への取組みと合わせて、処理方法の再検証など広範囲に渡る視野を環境管理責任者の下で作業者全員が意識をするようになったことが一番の成果だと考えている。その結果、目標数値もクリアー出来ており更なる改善に期待をしている。長期目標としている 15 kg/t へ向けて具体的な行動計画を策定していく。</p> |
| <p>汚泥のリサイクル</p> | <p>2018年度は昨年度よりスタートした汚泥の有効利用先との良好な関係性を維持しながら効率良く有効利用向けの汚泥搬出が出来た。中間処理後物の搬入先というのは自社の事業活動を継続していく上で非常に重要なウエイトを占めることから常に中間処理後の委託物については物性・性状の確認及び徹底した仕分け管理を実施するよう環境管理責任者を通じ指示をしている。搬入先からの異常数値報告等が1件も無かったことが良い結果に直接結び付いたと考えている。また現状の排出先だけでなく新たな有効利用向けの搬出先確保にも期待している。早い段階で汚泥リサイクル率 20%を達成し維持出来る取組みを行なっていく。</p> |
| <p>紙の回収</p> | <p>取引先の要望もある中で、依頼書等 FAX では無く電子化を依頼出来る取引先には電子化対応の依頼も行い、業務効率化と平行して紙資源削減には取り組んで来た。回収率は昨年と同等だったが、紙の購入量自体を減らせたことは大きな成果だと判断している。業務の中で無駄が出ないよう日々努めてきてくれた結果として購入量自体の削減に繋がったと思われるので今後も継続した活動を期待する。2019年度は2018年度実績プラス1%の回収率 76%を目標とする。</p> |
| <p>化学物質使用量の削減</p> | <p>単純な処理では処理が困難な廃棄物も増えてきている中で、今まで培ってきたノウハウを最大限に生かし環境管理責任者を中心に常に見直し、再検証を進めた中で化学物質の使用量の削減が達成出来たことは非常に素晴らしいと考えている。各種の使用薬品の値上がり等もあり、その影響も心配していたが目標値はクリアーできており今後も更なる技術向上を目指し、外部の研修等も有効的に活用しながら活動をするよう求めていく。</p> |
| <p>上水使用量の削減</p> | <p>上水道の使用については昨年に引き続き目標未達成となった。全ての使用水資源の経路確認を実施し、洗浄に使用している場所で上水を使用していたことが判明したため、直ぐに井水に切替えるよう指示をした。来期はこの部分で少しでも目標達成に近づくよう節水掲示なども再度取り組みながら意識向上に努めてもらいたいと考えている。</p> |
| <p>グリーン購入の推進</p> | <p>継続的な物品購入については昨年に引き続きグリーン購入の推進を助めてきたが購入量等に大きな変化も無いことから、購入割合についても大きな変化が出る状況になかった。今後も新たな物品購入に際しては基本理念を忘れることなく必要性の熟考からスタートし活動を継続していく。また各種の製品・サービス等に関する情報収集を行い、より良い選択をしていけるよう環境管理責任者を中心に活動してくれることを期待している。</p> |
| <p>平成 30 年度の総括</p> | <p>二酸化炭素排出量のカウントを従来の方法と変更した中で今までも取組みはしていたがやりきれていなかった部分などにも目が行き届き、各数値目標の達成に向けた取組みを環境管理責任者中心に自社の社員及び取引先も含め実施出来たと考えており、環境活動に対しては概ね満足の結果だと考えている。各数値目標の設定及びその目標達成のための施策の実施を通し、一人ひとりが自分ごととして環境活動に関わるよう継続性及び将来性のある活動を今後も期待している。合わせてコンプライアンスに関しても大きな指摘等は現時点では受けていないが、法律改正等が頻繁に行なわれる状況にあるため、常に正しい知識、見解を持てるよう積極的に外部講習や勉強会等への参加を通じ最新の情報収集に努めるようにしていく。今後もエコアクションの取組みが事業活動と密接に連携しながら自社の環境活動に関するレベルアップに貢献してくれることを大いに期待している。</p> |

2019年 7月 1日

株式会社 アイクリーン

代表取締役 青島 安宏

10. 次年度の環境目標について

| 項目 | 目標設定について |
|------------------------------------|---|
| 二酸化炭素の排出量削減 (電気使用量の削減) | 数値目標の算出を廃棄物の処分量あたりの二酸化炭素排出量をカウントすることにより、より実感を伴う数値目標となったことは大きな成果の一つだと考えており、2019年度についても2017年度を基準年として取組みを継続していく。15.08 kg/t以下を数値目標として活動する。 |
| 廃棄物排出量の削減 (汚泥のリサイクル率アップ) | 昨年の予想通りリサイクル率については大幅なプラスとなった。新たな搬出先を確保していくことも大きな課題の一つである。新たな搬出先も確保しながら、リサイクル率10%以上を目標とする。 |
| 廃棄物排出量の削減 (コピー用紙の再利用) | 廃棄物の取扱量が年々増加していくことで紙自体の使用量が増加し目標達成についての懸念もあったが高い意識を持って取組みが出来ている状況にあるため、2018年度対比1%増の回収率74.6%を目標とする。 |
| 化学物質の適正使用 (化学物質使用の効率化) | 薬品購入費が跳ね上がっている状況下であり、数値目標の達成は困難な状況であるが、性状を良く分析し混合処理が可能な廃棄物は混合処理を実施していく中で、薬品使用量を抑えられるので今後もデータを残しながら効率の良い処理方法を検討していく。今後も薬品値上げの可能も多分にあるため、目標としては2018年目標の1%削減となる56.4%とする。 |
| 上水の使用量削減 | 受入量の増加や構内美化活動等に伴い水道使用量が増加傾向にあるが、使用水源の見直しにより井水でも問題が無い部分についての切替を実施する。2018年度の上水使用量を目標値としてこれを超えないよう上水の使用量削減に努めていく。目標708.1 m ³ 以下。 |
| グリーン購入の推進 | 購入金額自体は増加しているが割合での目標を設定しているので今後も積極的にグリーン購入をおこなって運用していく。 前年度目標の1%アップとなる76%を目標とする。 |